令和３年度学校評価の結果と考察

- 324 世帯中，214 件のご回答をいただいた（回答率 66.0%）。
- 設問１では，回答いただいた 214 世帯の児童の在籍する学年を回答いただいた（複数回答）。各学年の在籍児童数と回答数及び回答率は下表のとおり。

	１年	２年	３年	４年	５年	６年	全体
在籍数（人）	８２	８５	６３	６４	７２	５０	４１６
回答数（人）	５７	５４	４４	４７	４９	３８	２８９
回答率（%）	６９．５	６３．５	６９．８	７３．４	６８．１	７６．０	６９．５

- 設問２～21 では，前年度までの設問の内容と変更点がある。児童の様子については，これまで評価対象が曖昧であったため，保護者から見た「我が子」と「寺崎小の児童」を分けて評価していただいた。また，コロナ禍等を鑑みて新規の設問を設けた。
- 評価方法（基準）について，昨年度までは A（肯定的）～D（否定的）の 4 段階であったものを，今年度は「E 評価できない」を加えた。これは，コロナ禍の影響で学校や児童の実態が分からない（評価不能）保護者が一定数いることを考慮したためである。
- 以下の各設問の肯定的回答（A,B）の割合は，総回答数 214 件から「E 評価できない」の数を差し引いて割り返したものである。
- 設問の右側（今年度，前年度）の数値の単位は%。百分率は小数第 2 位を四捨五入して表記した。
- 赤の数値…「今年度」80%に満たない，「前年比」４%以上の増減

【保護者から見た我が子の様子】

No	設　　問	今年度	前年度	前年比
2	お子さんは楽しそうに学校に通っている。	89.7	93.8	-4.1
3	お子さんは，友達と仲よく生活している。	93.9	96.3	-2.4
4	お子さんは，「授業が楽しい」と言っている。	80.5	85.0	-4.5
5	お子さんは，気持ちのよいあいさつや返事をしている。	70.8	77.9	-7.1
6	お子さんは，ご家庭でも学習や家の仕事（手伝い等）に積極的に取り組んでいる。	76.5	新規	－

【保護者から見た寺崎小の子どもの様子】

No	設　　問	今年度	前年度	前年比
7	寺崎小の子どもたちは，楽しそうに学校に通っている。	95.1	新規	－
8	寺崎小の子どもたちは，友達と仲よく生活している。	94.0	新規	－
9	寺崎小の子どもたちは，「授業が楽しい」と言っている。	80.9	新規	－
１０	寺崎小の子どもたちは，気持ちのよいあいさつや返事をしている。	69.2	新規	－

- 保護者から見た「我が子」の様子と，「寺崎小の子ども」の様子の評価には一定の差異がある。基本的には「我が子」に対する見方が厳しいという傾向がある。
- 前年比が全体的に減少傾向であるのは，評価対象を分けたことも影響していると考えられるが，一方でコロナ禍が続いた影響で，以前と比べて学校生活に制限が加えられたことが要因であると考える。
- 挨拶や返事に関する設問は，「我が子」，「寺崎小の子ども」のいずれも８割に満たない低い水準である。また，「我が子」に対する厳しい見方を覆して，「寺崎小の子ども」に対する評価が低くなっている。気持ちのよいあいさつや返事を，家庭，学校，地域のいずれの場所でも大切にできるよう指導を進めていきたい。

【教職員の取り組み】

No	設　　問	今年度	前年度	前年比
１１	教職員は，子どもの基礎的な学力が身に付くように指導している。	91.7	92.2	-0.5
１２	教職員は，子どものよさを認め，ほめて励ましている。	89.5	91.9	-2.4
１３	教職員は，子どもに応じた指導や配慮をしている。	88.1	88.5	-0.4
１４	教職員は，いじめや仲間はずれをしない学級づくりをしている。	92.6	92.0	0.6
１５	教職員は，たくましい子どもに育つよう体力づくりの指導をしている。	85.2	88.4	-3.2
１６	教職員は，子どもの発育や健康，衛生について配慮している。	93.6	96.2	-2.6

・ 概ね前年と同水準と見てよいが，設問 12，15，16 の減少が２％を超えている。
・ 子どものよさを認め，ほめて励ます機会は日常の中に多く存在するが，学校行事や対外行事はさらに大きな子供の成長の機会である。コロナ禍の影響で学校行事や対外行事が軒並み中止となってしまっていることも大きな原因となっているのではないだろうか。令和４年度もコロナ禍の影響は続くだろう。感染予防に最大の配慮をしながら，少しずつでも学校行事等，子どもたちの成長の機会となる場を増やしていきたい。同時に，日常の教育活動の中で，子どもたちの成長を認める場を，これまで以上に意図的に増やしていくように心がけていかなければならないだろう。
・ 感染予防を徹底すると運動等の活動に一定の制約が出てしまうのは致し方ないことであるが，その影響もあり児童の体力低下の傾向がみられるのも事実である。令和４年度については，全校でなわとびを重点教材として取り上げることで，感染予防を図りながら，体力向上に取り組んでいく。

【学校経営全般】

No	設　　問	今年度	前年度	前年比
１７	学校は，学校教育目標の具現化に向けて効果的な教育活動をしている。	87.6	新規	－
１８	学校は，新型コロナウイルス等感染予防と学習機会の保障の両立に向けて，適切に教育活動を進めている。	79.4	新規	－
１９	校舎内・校庭はよく整備され，子どもが学習や生活をしやすい環境となっている。	92.6	93.2	-0.6
２０	学校は，学校（学年）だよりやホームページ，メールなどで教育活動について情報発信に努めている。	89.0	86.0	3
２１	学校は，保護者・地域の願いを受け止める努力をしている。	81.2	90.1	-8.9

・ 設問 18 の感染予防と学習機会の両立に関する肯定的な回答が 80％を下回っている。これについては，様々な考え方があるが，国や県，佐倉市教育委員会から示される指標や対策をもとに，児童の健康と安全を第一とした，より効果的な教育活動の展開を模索していきたい。
・ 設問 21 の肯定的な回答率が 8.9％も低下してしまったことは，学校の取り組みを振り返りながら，事実を真摯に受け止めていきたい。コロナ禍による制約の中でも，少しずつできることを増やしていく工夫に取り組んでいきたい。
・ 設問 20 の肯定的な回答が３％上昇した。今年度の新しい取り組みとして，「マチコミ」の活用とホームページの充実があった。また，ミュージックフェスタの様子を配信する試みも行った。引き続き，様々な手立てで，学校の様子を保護者，地域の方へ発信する努力をしていきたい。